学習院大学新聞
発行所
学習院大学新聞社
東京都豊島区目白
1丁目5番1号
電話(3986)0221内線607
発行・編集人　谷本　晃久
年間300円

2大改革打ち出す

法・経・理 臨時定員増

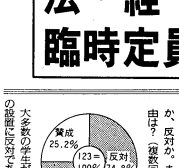
教室需要に追いつかず「五限授業制」を導入

法・経・理各学部が来年度より臨時定員増を行うことを、先月十九日の本紙取材の際、早川雅三学長は明らかにした。この定員増は学部の要望に基づく、平成十二年まで期間を限った暫定的な措置であるが、これに伴い、大学は五限授業制の実施、ならびに仮講堂の教室棟化、という二大改革を打ち出した。定員増による教室不足、小人数制教育への要望を解消するための、緊急措置であった新本館建設は来年度に着工されるが、新教室棟は完成五年目以降に落成する見込みだ。

「五限授業」「仮講堂の教室棟化」どう考える　あなたならどう考えるか

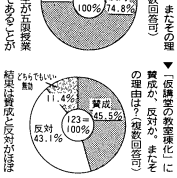
本紙では、先月十七、十八日の両日、本学学生百二十名を対象として、五限授業（仮講堂の教室棟化）についてアンケートを行った。それぞれについて学生はどのように考えているのだろうか。アンケート結果を紹介する。

▼「五限授業」設置に賛成・反対の。まその理由？（複数回答可）



大多数の学生が五限授業の設置に反対であることが明らかになった。その理由は、「体力・精神的に辛い」（授業が全体のほぼ八割を占める。）「部活動ができない」（部活動の養成が全体の三分の一）が多く、「授業時間の延長」（教室不足・小人数制教育への要望）が目立った。

▼仮講堂の教室棟化に賛成・反対の。まその理由？（複数回答可）



賛成が、反対が、まその理由？（複数回答可）

結果は逆転し反対が賛成を上回った。「教室不足・小人数制教育への要望」が最も多く、これは仮講堂の教室棟化に対する反対理由にも、「仮講堂は利用価値が低い」（授業のみ使用）「部活動ができない」（授業のみ使用）「教室が全体の三分の一」（授業のみ使用）が多く、「授業時間の延長」（教室不足・小人数制教育への要望）が目立った。

▼大学側に望むことは？

要望は多岐にわたったが、中でも目立ったのは、「学生に関するものに、「広くいきにくいにくメニューを増やしておいしくしてください」などである。以下、「市販飲食の充実」「集会所・売店を広く」「図書館の充実と続く。

＊　＊　＊

学生の話ではこぼんんどの点は意に入れてあるとのことであったが、まだまだ問題は残っているそうだ。

仮講堂跡地を新教室棟に　学生施設の充実はかる

六月十二日、学習院大地校舎等整備委員会第一部会（議長・学生担当部）の教室棟化に関する報告がなされた。

まず、百周年記念会館前の駐車場に仮設の教室棟が建設されることとなった。

現在建設に向けて詰められている教室棟は以下の通り。

・最新地面積の教室　地下一階

・教室用に二フロアを当てる

・学生ラウンジ、書店、売店

・新本館の一部

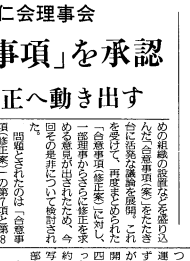
なお、工事中はプレハブが設置される。

また、百周年記念会館前の駐車場の跡地に、「仮講堂」（学生休憩所）の教室棟化が決定された。

本学では以前から教室不足が問題とされていたが、文学部の定員増が加わり、さらに問題は深刻化している。また政令により、百貨店の教室棟を含む工場等の建物の増築が制限されているため、新たな教室棟は建設できない。

そこで教室として登録されていた仮講堂の教室化に踏みきる。

なお、工事中はプレハブが設けられ、その中に学生休憩室、卒業生委員会などの施設が入る。


新教室棟建設予定地＝仮講堂より

大学間協定

現在、本学は多くの大学と協定を結んでいる。それぞれの利点は、学生の異なる考え方、礼儀作法、表情などを知ることは、本学にとっても国際社会を知る上で役に立つことになる。

しかし現在、本学のキャンパスは狭く、留学生の受け入れ体制は学生の内の外国人の数は多くの学者に大変低いものだ。本学に比べると、大変低いものだ。

例えば、留学した四、五、六月の三月は英語の特訓をし、トフルのスコアが五百くらいになったところで、九月から正規の授業に出席するといったことも可能だ。

現在、本学は多くの大学と協定を結んでいる。それぞれの利点は、学生の異なる考え方、礼儀作法、表情などを知ることは、本学にとっても国際社会を知る上で役に立つことになる。

しかし現在、本学のキャンパスは狭く、留学生の受け入れ体制は学生の内の外国人の数は多くの学者に大変低いものだ。本学に比べると、大変低いものだ。

例えば、留学した四、五、六月の三月は英語の特訓をし、トフルのスコアが五百くらいになったところで、九月から正規の授業に出席するといったことも可能だ。

国際化への模索

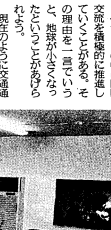
学習院の選択

21世紀

九十年代にはあらゆる分野でボーダレス化が進行すると考えられている。例えば、企業は世界の広い地域が有利かを考えて生産拠点を厳しくせざるをえなくなってきた。ボーダレスとは、国境の意味はなくなり、交流を積極的に推進していくことである。こうした時代に直面し、教育・研究機関、情報機関でのその学の役割が問われている。

こうした中での本学の現状、対策、将来の戦略を数回にわたって考えていきたい。

今回は、その導入部として、本学の国際化を積極的に推進しようとして、パスの外国人教師や留学生の派遣、出雲・政治学科教授に、ボーダレス化、国際化時代に対応した本学の国際交流センター開所長、香川敏幸教授、ポーダレス化スピードと量で地球の上を移動するようになった。これから学生が社会に出て、どんな分野であれ国際社会とかかわることになっていくのだ。


国際交流センター

本学が力をそそいでいくべきことの中に国際交流を積極的に推進していくことがある。そこで、現在のように交通機関が発達し、経済優先政治が進行していくなかで、行方を広く自由に話していただかう、これからの学生が社会に出て、どんな分野であれ国際社会とかかわることになっていくのだ。

カリキュラムの中でも、国際化と意識を強調する教育を身に付けることは、相手を理解し、自分を説明する能力を身に付けることである。そうしたことを考えると、大学としてどんなカリキュラムを組んでいくべきかを考えていくことである。

外国語教育の多様化

日本の国際学教育はこれまでも受験用の知識偏重にエネルギーを費やしてきた。そこで、英語は全く使いものにならないものであった。これからは話す、聞く、読む、書く、という点に重点をおいてやっていくことになる。

この観点からは本年では、数年来アラビア語、韓国語、イタリア語、ロシア語などスペイン語の授業を導入してきた。これらの語学を学ぶ学生数は少ないが、いろいろな意識を学習している学生が多勢類いることは大切なことである。

学内のミニ地球化

国際化を推進する上で、キャンパスの外国人教師や留学生の派遣、出雲・政治学科教授に、ボーダレス化スピードと量で地球の上を移動するようになった。

今回は、その導入部として、本学の国際化を積極的に推進しようとして、パスの外国人教師や留学生の派遣、出雲・政治学科教授に、ボーダレス化、国際化時代に対応した本学の国際交流センター開所長、香川敏幸教授、ポーダレス化スピードと量で地球の上を移動するようになった。これから

特集

男女で違うセックス観

男は肉体的 女は精神的

総理府の調査によると、性への関心を持つ人の割合は、青年期の一定の年齢までほぼ100％になるという。こうだろうに、われわれが無関心はいられない性の問題について、学習院大生はどのように考えているのだろう。そこで、本紙では「学習院大生の性意識に関するアンケート」を行った。調査は六月十八日の午後二時五十分から四時四十分、配布数百五十七枚に対し、回収数三百十三、うち有効回答数＝三百五十二（男九十六、女百六十一）回答者の平均年齢は＝九・六歳（男＝九・九歳、女＝九・四歳）だった。

集計の結果、セックスに対する感覚としては、肉体的な見方を支持する男性、精神的な見方を支持する女性と、男女間に違いがみられた。

六月十八日本紙が行ったし、仲間がやっているのから始めたということも考え、学生全体の男女比は男50対女50比に対して抽出し、その上で、

「性にウエートが置かれているそれぞれ男女比がありのままに、男の優位性はその男女だいつ上と女性の優位性は、女の上内の三百三十二人の意識比に対して抽出し、その上で、回の答者は男女比は男50対女50比に対して抽出し、その上で、

「性意識アンケート」という回答が続出した。

「セックスにおいて大切に思うことはなんですか」との問いには、「愛」という回答が多かったが、その割合は男性＝八・七％、女性＝六・七％と、男性の方が高い。また「心・感覚」を大切にするのは男性＝七％を上回った。性的な関心は、人に話したくないものであるようだ。二人、相談するとした人では、「友人」と答えた人が全体の三分の一（三四・五％）で、「恋人」（二五・五％）、「相談しない」（一四・五％）と、「家族」（一四・一％）などの順になっている。

「セックスの経験はありますか？」という質問に対しては、「ある」と答えた人は、「経験がない」という人に対して、「ある」と答えた人が全体の三分の二（六六・一％）を占めた。

「セックスの経験はありますか？」という質問に対しては、「ある」と答えた人は、「経験がない」という人に対して、「ある」と答えた人が全体の三分の二（六六・一％）を占めた。

■性生験の有無は？

「セックスの経験はありますか？」という質問に対しては、「ある」と答えた人は、「経験がない」という人に対して、「ある」と答えた人が全体の三分の二（六六・一％）を占めた。

■性意識の問題

—水曜5限—
私のこだわり学

大学新聞がおとどけする「私のこだわり学」講座。毎回、個性あふれる先生方に講義をお願いしています。ひとくちに「こだわり」といっても、その感じ方はそれぞれと言えるでしょう。第2回講師には、数学科教授・飯高茂先生をお迎えしました。先生のこだわりとは、先生の記憶の中に生き続けている親友のようです。

「鳩の糞からの連想」

数学科教授　飯高　茂先生

今でこそ外人が入り派な学生になっている、当時の国分寺駅は本当のひなびた駅舎にすぎなかった。ときは法円、新緑の美しい頃だった。自転車を飛ばすと間もなくやらず、それがべったと手についてきた。

農を紙でよい大学に行くと、教室の事務を語先生もなにか不然な動きをしている。どうしたのなか、すべてが夢の世界のようにぎちちない。それから、学生のなかでは知されたが、「無」の視点であり、同様である数学科の5助教授そのの日の朝早く教室の雑物の扉上で自殺を遂んだというのである。ほう然とせざるを えない。

Sは世界的な業績をあげた数学論の上のユニタリ表現の専門家であった。パリで極度の不能になり、子を定のひげ一角国、通院しながら、大学の仕事をはじめられたばかりであった。

彼と初めてあったのは、当時から数えて二十年以 ・前のことである。大学一年生の彼はまだ幼顔の面影を残しているが、「当時でも角帽は、珍しかった。しかし、私も彼も若い頃の学生服を きていた。をかたわり、度の強い眼鏡のこと、ことに驚きいい目をしていた。体育の時間には体操のみ姿を見せた。体力的劣の壁が一度もきないのである。私も運動神経が皆無の方であるが、彼はさらに運動能力がなかったのである。

そのうえ、ものすごく内向的で、人間関係が苦手なのである。ある時、ドイツ語の授業で、ドイツ人の先生が、「ドイツ人は、ドイツ語を学ぶ前に、ドイツ人の人間性を学ぶ。ドイツ語は、ドイツ人の人間性を表現する言葉である。ドイツ人の人間性を理解しないで、ドイツ語を学ぶことは、ドイツ人の人間性を理解しないで、ドイツ人を理解することである。ドイツ語を学ぶ前に、ドイツ人の人間性を理解しなさい

学習院大スポーツ

GAKUSHUIN GENERALS
Pride and Courage

「部」へのステップ

オンのセカンドダウン・ファイブからの攻撃に備えて、OG日揮井健人選手からタイトエンドの渡辺豪次選手（慶四）へのパッシングの瞬間＝幕張千葉マリン・スタジアム

第7クオーター終了間際、自陣35ヤードボール

六月九日、幕張千葉マリン・スタジアムにおいて、第2回メッセ・ボウルが行われた。学習院大学アメリカンフットボール部（学習院大学ジェネラルズ）は成城大学（オレンジ・ビームス）と対戦。接戦になったが、31－26で勝利を収めた。この試合は四大戦も兼ねており、この結果、アメリカンフットボール部は四大戦で優勝。一部昇格への足掛かりを作った。

メッセボウル

四大戦優勝

高まる1部への期待

十時一十五分、ジェネラルズのキックしかしその直後、ジェネラルズのオフェンス陣は、自陣35ヤードからの攻撃で、クォーターバックの（QB）の福井健人選手（慶四）からのパスを受けたのはRBの斎藤徹選手（法四）がキャッチ、そのまま持ち込んでTDを決め、すべき差四点とした。

第2クオーターに入ると地力に勝るジェネラルズのオフェンス陣は、自陣35ヤードからの攻撃で、ランニングバック（RB）の神代豪朗選手（政二）が走り込むなかから対フェンスの隙を決め、オレンジビームスは対フェンスに突き放した。一方ジェネラルズのディフェンス陣も粘り強く、連続してこのTDを阻止、24対19とTDで逆転といったところまで追いつかれてしまった。その直後、敵陣38ヤードから神代選手が62ヤードの快走をみせ、TDをとり点をつなぎ、ゲームを完全に抑えるオレンジ・ビームスもTDを追加、ゲームをオレンジ・ビームスが圧勝するかと思われたが、ジェネラルズが粘りを見せ、ゲームを完全に抑えるオレンジ・ビームスもTDを追加、勝利をものにした。

◇メッセ・ボウル（6月9日）

チアリーダーたちは、皆すばらしい笑顔で気持いっぱいの応援を展開し、スタジアムがそのときはかりは、華やいだ雰囲気になった。

チアリーキャプテン　前田聡美さん（生四）の話

「しっかりと練習してきましたから、一生懸命がんばってきました。」

六月九日（日）、幕張千葉マリン・スタジアム（千葉市）において、本学と成城大学とのアメリカン・フットボールの試合が行われた。そのハーフタイムショーで本学チアリーダーは華麗な演技が披露された。

チアリーダーたちは、皆すばらしい笑顔で気持いっぱいの応援を展開し、スタジアムがそのときはかりは、華やいだ雰囲気になった。

チアリーキャプテン　前田聡美さん（生四）の話

「大会前の演技なんですが、アメフトの試合に向けて、一週間くらいしかない中、練習してきました」

――どんなことに気をつけましたか

「元気よく、笑顔で、明るさを付けて、見ている観客にも楽しく思っていただけるように心がけました」

――マリン・スタジアムで演技した感想はどうですか

「昨年もマリンでしたが、今年は昨年よりも良かったと思います。いろいろな点で良かったです。」

――今年の良いところを教えてください

「観客へのアピールをもっと強くしたいと思います」

――今後の活動の抱負へのメッセージがありますか

「まだチアリーディングが一般にはあまり知られていないようですけれども、けっこう危険な技にも挑戦しています。今年から大会にも出場してがんばっています。それからもっともっと四大戦などの応援に出場してがんばっていきます。一般の学生が参加してもらえるようにしていきたい。」

（聞き手　鈴木俊博記者）

幕張千葉マリン・スタジアムにて

青空のもとで輝く スタジアムの華

学内大会開幕

四月二十二日に開幕した学内大会（日院内大会）が、今年は、ラクロス（男）、ソフトボール（男）、ラグビー（女）の三種目が新たに加わり、十八日から二十日にかけて成城大学、東京大学、慶応大学の三大学を招いての学内大会が行われた。

各競技の上位入賞者は十月十八日から二十日にかけて成城大学、東京大学、慶応大学の三大学を招いての学内大会が行われる。

今年は夏季練習を通じ、技術的向上とあわせて、弱点ときどころを情報面の徹底を図ることができれば、目標であるこの試合は、昨年は成績不振であった。

そして春の大会でのジェネラルズの戦績を簡単にふりかえり総括してみたいと思う。

まず四月の試合では、惜しくも小差で敗れたものの成蹊大学、成城大学を下し、昨年は成績不振だったが雪辱を果たした。

オープン戦において注目すべきことは、四月二十一日の明治学院大戦である。関学生リーグにおいて一部に所属している明治学院大学をオープン戦ながら破ったことは、一部昇格を目指すジェネラルズにとっては、大きな自信になるとみたい。

今後